条幅部自由参考

11月25日正午必着

明石春浦先生書

冬枯(ふゆがれ)の 黄(き)なる草山(くさやま) ひとりゆく うしろ姿を 見むひともなし（若山牧水）

明石幸子書

葉上秋光白露寒（はじょうのしゅうこうはくろさむし）（羊士諤）　草木の葉に秋の陽光がさし、白露がつめたく光る。

11月25日正午必着

山川草木轉荒涼　十里風腥新戰場
征馬不前人不語　金州城外立斜陽　（乃木希典）

叶　采園先生書

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

郁情山趣（段成式）

秋風乗レ夕起　明月照二高樹一
閑房來二清氣一　廣庭發二暉素一　（何劭）

郁情山趣

秋風夕に乗じて起り　明月高樹を照らす
閑房に清氣來り　廣庭に暉素發す

黄塵の外の景。

秋風は夕暮になると吹き、明月は高い樹を照らす。しずかな室には清らかな風が入ってきて、広い庭にはしらじらと月の光がかがやく。

早行寄二朱放一（戴叔倫）

山曉旅人去　天高秋氣悲
明河川上沒　芳草露中衰
此別又千里　少年能幾時
心知剡溪路　聊且寄二前期一

早行　朱放に寄す　戴叔倫

山暁けて　旅人去り　天高くして　秋気悲し
明河　川上に没し　芳草　露中に衰う
此の別れ　又た千里　少年　能く幾時ぞ
心に知る　剡溪の路　聊且　前期を寄す

女郎花　ふくむ萱山　濡れなびき　雨は嵐に　ならんとするも　（木下　利玄）

半紙部規定課題Ａ

11月25日正午必着

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

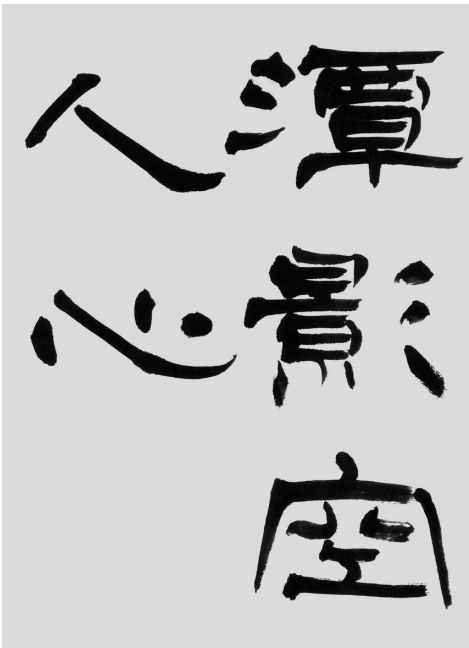
※課題Ａ（楷書）と課題Ｂ（四体の中より一書体選択）の二点を出品のこと。

半紙部規定課題Ｂ

11月25日正午必着

行書

隷書



明石春浦先生書

題破山寺後院　常建

清晨入古寺
初日照高林
曲徑通幽處
禪房花木深
山光悅鳥性
潭影空人心
萬籟此俱寂
惟聞鐘磬音

草書

行草書

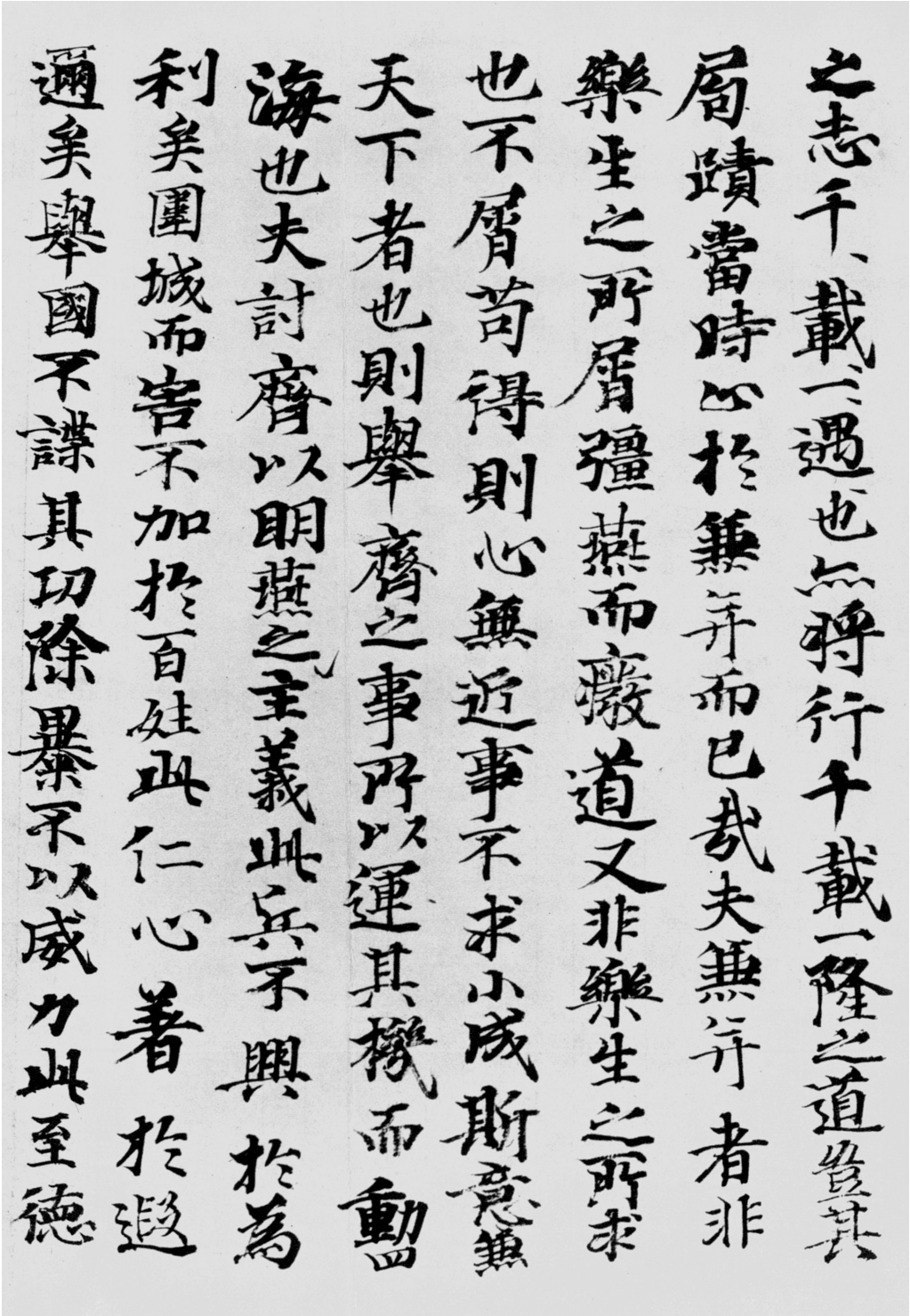
破山寺の後院に題す　常建

清晨　古寺に入り
初日　高林を照らす
曲径　幽処に通じ
禅房　花木深し
山光　鳥性を悅ばしめ
潭影　人心を空しうす
万籟　此に俱に寂たり
惟だ鐘磬の音を聞くのみ

（出典）
朝日新聞社刊
「三体詩」下より

すがすがしい晨、年古りた寺に入って行くと　おりしもさしのぼる朝日の光が、空高く茂る林の梢を照らす
曲りくねった径はしずかにおくまった処に通じ　僧房のあたりに、花咲く木々が深く茂っている
山中の風光は、鳥の本然の性を満足させ　潭に映ずる影は、人の心の雑念を拭い去ってくれる
すべての物音が、いまやここにすべてひっそりとしずまり　ただ寺でうちならす鐘と磬の音だけがきこえてくる

条幅部半紙部臨書課題



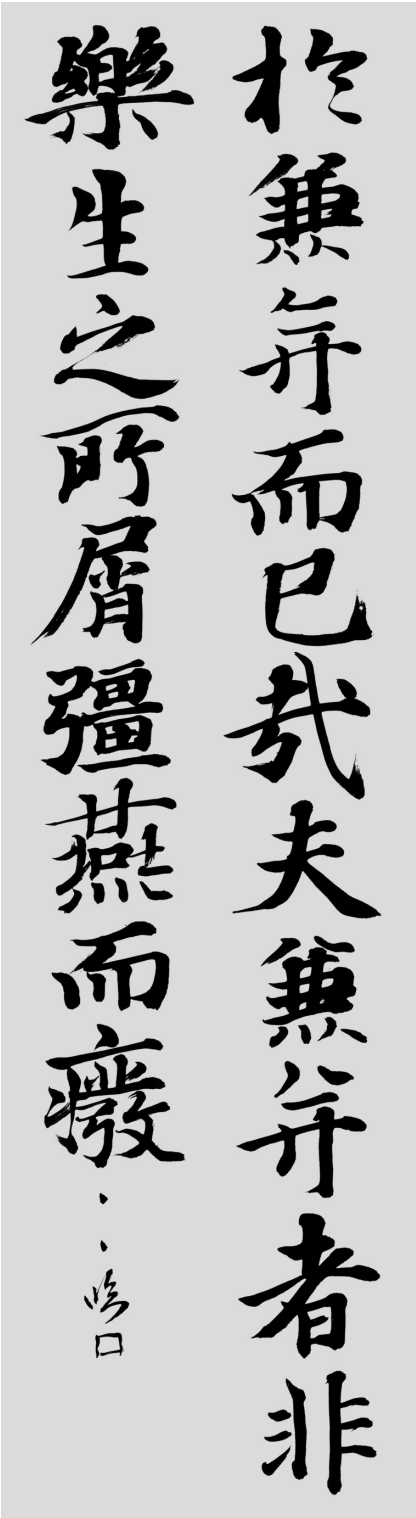
（樂生）之志。千載一遇也。亦將行千載一隆之道。豈其局蹟當時。止於兼并而已哉。夫兼并者非樂生之所屑。彊燕而廢道。又非樂生之所求也。不屑苟得則心無近事。不求小成。斯意兼天下者也。則舉齊之事。所以運其機而動四海也。夫討齊以明燕主之義。此兵不興於爲利矣。圍城而害不加於百姓。此仁心著於遐邇矣。舉國不諜其功。除暴不以威力。此至德（全於天下矣。）

（楽生）の志は、千載一遇なり。亦た将に千載一隆の道を行わんとす。豈、其れ当時に局蹟して兼并するに止まるのみならんや。夫れ兼并は楽生の屑しとするところに非ず。彊燕にして道を廃するは、又楽生の求むる所に非ざるなり。苟も得ることを屑しとせざるは、則ち心、事に近づく無く、小成を求めざるは、斯ち意、天下を兼ぬるものなり。則ち斉を挙ぐる事は、其の機を運して四海を動かす所以なり。夫れ斉を討ちて以って燕主の義を明らかにす。此れ兵、利の為にするに興さざるなり。城を囲みて害、百姓に加えられざるは、此れ仁心の遐邇に著るるなり。国を挙げて其の功に諜らず、暴を除くに、威力を以ってせざるは、此れ至徳の（天下に全ければなり。）

条幅部半紙部臨書参考

森戸春濤臨書

（夫れ兼并は）楽生の（屑（いさぎよ）しと）するところに非ず。



（豈、其れ当時に局蹟（きょくせき）して）兼并（けんぺい）するに止（とど）まるのみならんや。夫れ兼并は楽生の（屑（いさぎよ）しと）するところに非ず。彊燕（ちょうえん）にして道を廃するは、

奈良 光明皇后（こうみょうこうごう）・樂毅論（がっきろん）

光明皇后、大宝元年、（七〇一年～七六〇年）奈良時代の人、藤原不比等と県犬養三千代（橘三千代）の娘。聖武天皇の皇太子時代に結婚し、七一八年阿部内親王を出産、七二七年には基王を生んだ。光明皇后というのは通称で、正式な尊号は天平応真仁正皇太后という。仏教を篤く信仰し、その実践として悲田院や施薬院などを設置したことは知られている。

「楽毅論」といえば、書聖王羲之のものが知られている。王羲之の楷書作品の中で最も評価が高く、隋の智永は、正書第一と称し、唐の太宗は哀惜のあまり「蘭亭序」とともに墓の中まで持っていったという逸話もあるくらいである。内容は、中国の三国時代、魏の夏侯玄が、燕の宰相楽毅が斉を討ってその七十余城を降したものの、二城を攻略しなかったため世の避難を受けているのを夏侯玄が弁護した内容となっている。

光明皇后の「楽毅論」は中国より請来の模本を臨書されたものと考えられる。巻子本で縦25㎝長さ127㎝の白麻紙に四三行で書かれ署名から皇后四十四歳の作である。

この作は、見る者の心を打たずにはおかない熱情、迫力そして気品に溢れている。皇后の高い教養と人格がうかがえるものといえる。起筆から次から次の点画を生み出すような展開から、虚画までもが充実してるといえる。現在、正倉院宝物として蔵されている。

（春廣）

11月25日正午必着

教育部毛筆

雨宮春聲先生書

弁論大会（べんろんたいかい）　中学一年

菅井松雲先生書

歌舞伎座（かぶきざ）　中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

榎戸春龍先生書

日本ばれ　小学五年

横川春川先生書

お国言葉　小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

11月25日正午必着

藤田幸春先生書

てつぼう　小学三年

細谷春誠先生書

とけい台（だい）　小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

明石幸子書

ぬ　ま　小学一年・幼年

森戸春濤書

ざ　く　ろ　小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

11月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

秋来ぬと目には見えねども風の音にぞおどろかれぬる

明石幸子書

秋來ぬと　目にはさやかに　見えねども　風の音にぞ　おどろかれぬる（藤原敏行）

ことばでは言い表せないような深い共感を覚えました

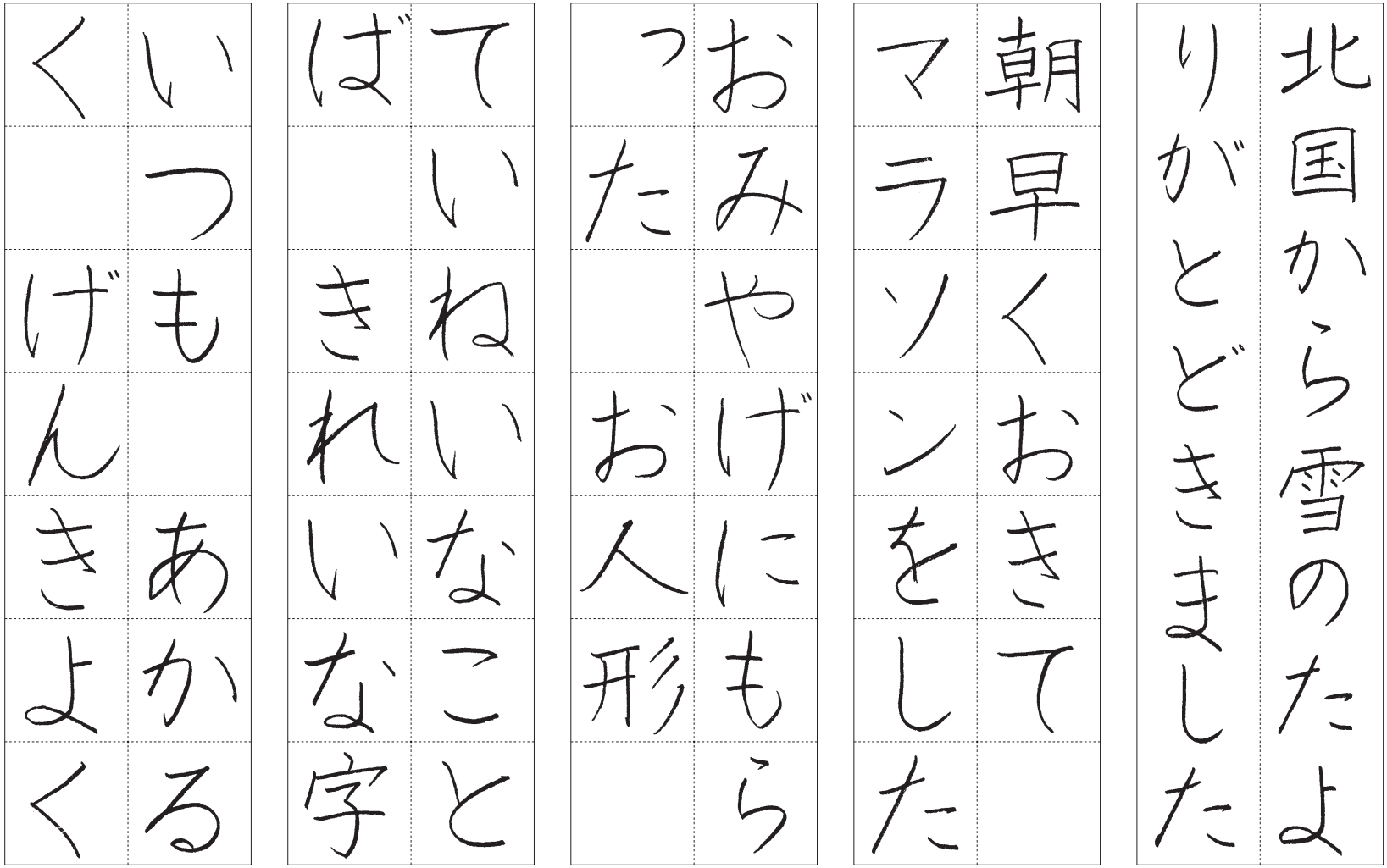
ふたりを乗せた舟は湖水を静かに進んだ

風船は青空にすいこまれ消えて行った

思いやりの心を持つことは大切です

一般（段位）　一般（級位）　中　学　小学六年　小学五年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆　中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。（ボールペン不可）
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



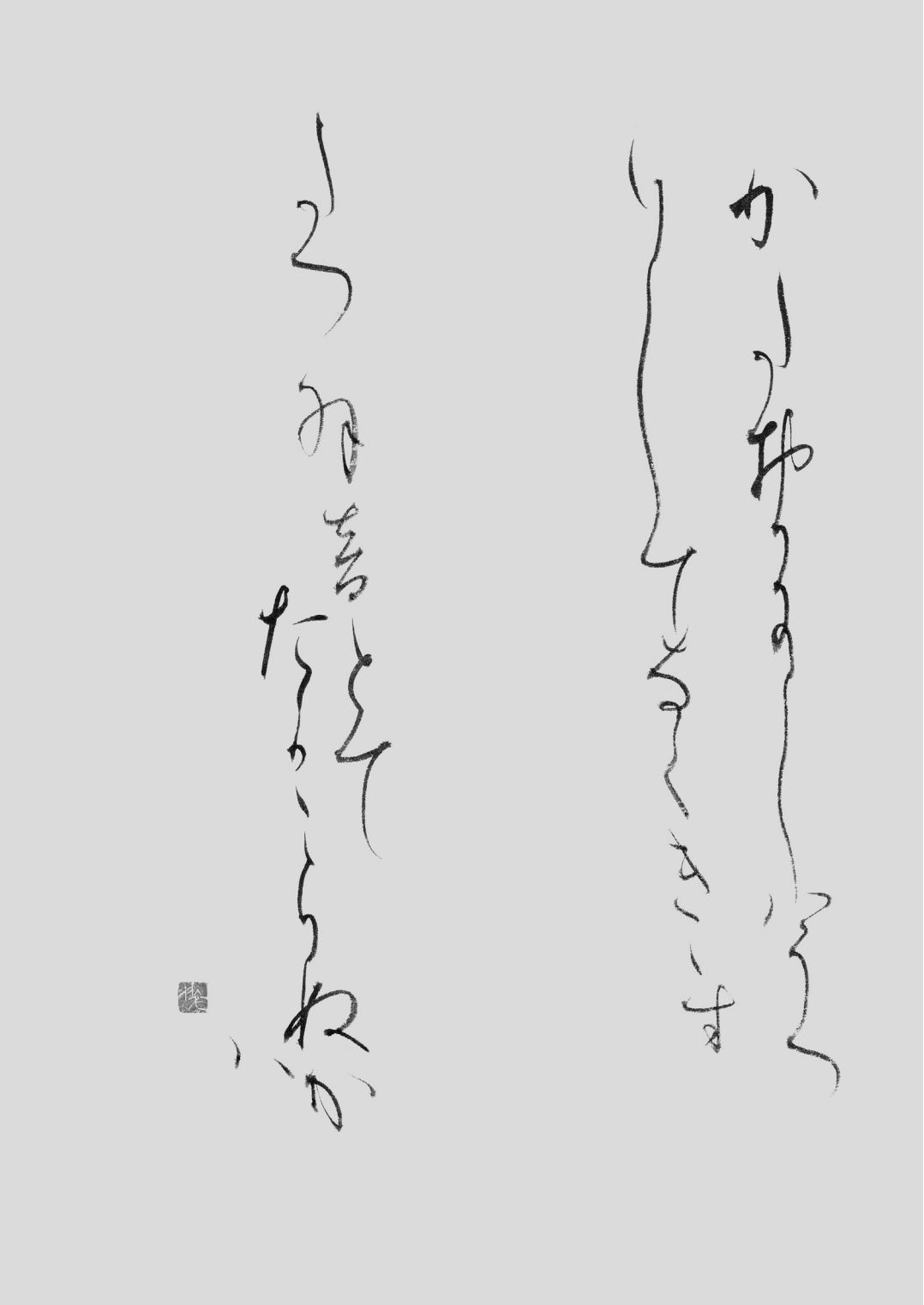
幼　年　　小学一年　　小学二年　　小学三年　　小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆　中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。（ボールペン不可）
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

半紙部かな参考

11月25日正午必着



かたおかに　しはうつりして　なくきゝす　たつ羽音とて　たかゝらぬかは　（西行）
多可尓八　奈　多　可八

松永翠舟先生書